

2017.4

Library News vol.71

学生のオススメ本 / 先生のオススメ本

発行

名古屋経済大学・
名古屋経済大学短期大学部図書館

学生の オススメ本！

『白ゆき姫殺人事件』

湊かなえ著（集英社文庫）2014

わたしのオススメの本は、白ゆき姫殺人事件です。
この本は赤星という記者の目線で書かれており、取材相手が私たち読者に対して事件内容を語っているように書かれています。事件を調査するため上司、同僚、後輩、友人等に取材していくうちに容疑者の人物像がどんどん変化していきます。
真犯人は誰なのか、赤星になったつもりで推理して読み進められるので是非読んで見てほしいです。



法学部 押田真奈美

『ユーロから始まる世界経済の大崩壊』

ジョセフ・E. スティグリッツ著（徳間書店）2016

2016年6月イギリス国民投票においてEU離脱が決定し、EU各国に離脱の熱が伝染。アメリカ大統領選挙では保護貿易や移民排斥を唱えるトランプ氏が勝利。そういった保護主義の台頭の中、EUの崩壊が何をもたらすのか、また崩壊しないためには何をすべきかを本書は具体的に示す。
「経済競争による略奪」を是とする世を本当に終わりにしよう。そのためには財政均衡理論でもSupply-side経済学でもない。Demand-side経済学によるモラルある経済成長なのである。



人間生活科学部
砂山真琴

『海賊とよばれた男』

百田尚樹著（講談社）2012

『海賊とよばれた男』は出光興産創業者の出光佐三をモデルとした主人公・国岡鐵造の一生と、出光興産をモデルにした国岡商店が大企業にまで成長する過程が描かれています。
笑いあり涙ありの感動できるストーリーで、映画にもなった物語です。これを読んだら出光のガソリンスタンドの見方がわかるかも知れません。是非読んでみてください。



短期大学部 西尾董

『愛をみつけたうさぎ』

ケイト・ディカミロ著 / バグラム・イバトーリーン絵
（ポプラ社）2016

この話は陶器のうさぎが主人公です。うさぎは自分に満足しすぎていて、人間に愛情を注がれて大切にされていても自らが人間を愛することができませんでした。そんなうさぎが旅をして、誰かを愛するという気持ちを知るお話です。
この本を通して、家族や友達と接していることを当たり前だと思わず、感謝と愛情をもって生活していかなければいけないと感じさせられました。みなさんにもぜひ読んでもらいたいです。

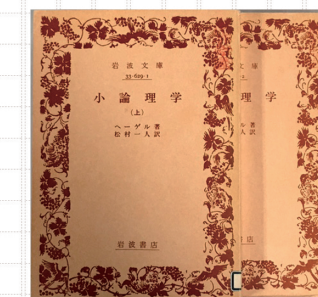


経済学部 村瀬瑞季

『小論理学』(上)(下)

G.W.F. ヘーゲル著（岩波文庫）1978

真理を全体であると称した、哲学者ヘーゲルの著書の一つ。この本はヘーゲル哲学の中でもきわめて重要な「論理学」を中心に据えられています。彼の哲学は論理学の展開より始まる哲学であり、この本は彼の考え方を端的に著している書物であるといえます。
この本を読めば、私たちが日常的に何気なく「考える」という行為が、いかに限定的な認識に基づいているかを感じることができると思います。
ヘーゲルの哲学は中々に難解ですが、論理的な思考能力の向上と諸概念の把握に対するアプローチの一様式の獲得とが見込めるでしょうから、時間を割いても読む価値はある筈です。是非一度目を通してみてください。



経営学部 尾崎恒紀

Library News vol.71 でご紹介している資料は、
図書館3階で展示＆貸出しています。

空いた時間に！ PC & 視聴覚コーナー

皆さんは図書館の2階を使ったことはありますか？
PCやDVD等の視聴コーナー、新聞や雑誌を利用することができます！



MOS 試験対策にも

図書館のPCコーナーは個別ブース型。
集中して作業ができるので、レポートの作成や
MOS 試験の勉強にぴったりです。
(※プリンタあり。白黒印刷のみ可。
用紙は5枚5円から購入制です。)

DVD や新聞・雑誌でひとやすみ

PCコーナーのすぐ傍にあるのが、新聞・雑誌、
そして視聴覚コーナー。
新聞は日経からスポーツ誌、雑誌は文芸誌から
ファッション誌まで幅広く用意しています。
(※法学などの専門誌は5階です。)
視聴覚コーナーでは、図書館の視聴覚資料を
観たり聴いたりすることができます。
専門的な内容のものから、最新映画のDVD、
クラシックのCDなどこちらも幅広く利用できます。



ご入学 & 新学年
おめでとうございます！

図書館を更に使いやすくするため、
ご意見・ご要望はお気軽に
図書館までお寄せください！

Library News 発行日 2017.4
vol.71 (図書館だより) 発行回数 年2回
名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部図書館
〒484-0000 愛知県犬山市字樋池 61-22
TEL: 0568-67-3798 / FAX: 0568-67-9321
E-mail: toshokan@kan.nagoya-ku.ac.jp
URL: http://www.wopac.nagoya-ku.ac.jp/

先生の オススメ本！

『発展する地域 衰退する地域』

ジェイン ジェイコブズ著 (ちくま学芸文庫) 2012

地域の経済を考える上で、知っておきたい本の1つです。ジャーナリストでもあったジェイコブズの視点はわかりやすく、たくさん地域を事例としてとりあげています。そして世界各地の都市の発展と衰退の経過を追いながら、そのダイナミズムに注目した点は、現在でも評価され続けています。
最近、地域再生の議論が盛んですが、この本の原著は四半世紀以上前の1980年代に書かれたものです。その時代に、輸入置換や輸入代替という視点、発展する地域の創造性や地産地消の可能性についてすでに指摘しているというのも興味深い点です。これは現在の地方創生や創造都市・地域といった考え方にもつながるところがある本です。ジェイコブズの視点を参考にすると、自分の出身地や住んでいる地域あるいは周辺の国々について、現在の地域経済がどんなものかみえてくるかもしれません。あるいは文中の日本の事例のように、仮名での地域紹介もあるので、どの地域のことを調べてみるのもおもしろいでしょう。皆さんが地域経済に限らず、様々なスケールで「地域の発展」に関する議論をする前に、ぜひ読んでみることをオススメします。



経済学部
佐藤正之 准教授

『Butterflies』

BUMP OF CHICKEN 作 (TOY'S FACTORY) 2016 ※こちらの資料のみ所蔵なし

「叱られるって思い込む 何か願ったそれだけで」。収録曲「GO」の一節です。何か行動を起こすたび親や先生に怒られる、かといって何も起こさなかったらそれはそれで叱られる…。そんなことが繰り返されたら、いつか、すべてにやる気を失ってしまうかもしれませんよね？
でも、みなさんが「怖がりながらも選んだ未来」は、本当は「とても素晴らしい日」であるはず。ただ他方で、そうやって一歩“前に踏み出す” (経済産業省 HP 「社会人基礎力」参照) ためには、その力の源も必要なのだと思います。
そこで1つ提案です。本やDVDにも、手を伸ばしてみませんか？ 2016年冬、“音楽”家であるポップ・デュランが、ノーベル“文学”賞に選出されました。もしみなさんに“音楽から力をもたらした”という経験が1度でもあるのなら、小説や映画も同じように、力をくれるかもしれませんよ？
本学図書館には、素晴らしい“出会い”がたくさんあります。自分から“探し出す”必要は必ずしもありません。何より足しげく通ってください。そして、「皆が走って先急ぐサーカス」ではない(?)「君の行きたい場所」を、私たちと一緒に目指しましょう！



法学部
榊原嘉明 准教授

『読む力は生きる力』 脇明子著 (岩波書店) 2008

本書は、“本”というものについて、真摯に向き合い直させてくれる本です。とくに読書を苦手、あまり好きではないと思っている人には、これまでの本とのかかわり方を一変させてくれる一冊となるはず。広くよく知られている書籍をたくさんあげながら、筆者の具体的経験を交えて、本を読むことの楽しさや意味合いについて、「読書離れ」の改善・解決を念頭に置きながらも、わかりやすく語ってくれています。赤ちゃんから小学生の時期における本とのかかわりを中心に、「赤ちゃん絵本」をはじめとして、「本と映像メディアとの関係」や「本を読めない理由」など、そのいずれについても納得させられることばかりです。
巻末にはとりあげられた書目の索引もあり、とくに幼稚園や保育園、小学校をはじめ、子供たちと接する職業に就きたいと希望している人には、実用的価値も高い、おすすめの本です。



短期大学部
角谷新一 准教授

『その幸運は偶然ではないんです！』

J. D. クランボルツ & A. S. レヴィン 著 (ダイヤモンド社) 2005

「私にもチャンスが巡ってこないかな…」誰もが一度はこのような思いを巡らせたことがあるでしょう。「幸運」に恵まれる人とそうでない人にはどのような違いがあるのでしょうか。本書は「偶然」という視点からその答えを検討しています。
皆さんも大学卒業後にどのようなキャリアを歩もうかと考えていることでしょう。ただ、必ずしも想定通りのキャリアを歩むとは限りません。想定外の出来事(偶然)によって様々な影響を受け、思い描いていたキャリアは変更を余儀なくされることもあります。そうした状況で充実したキャリアを歩むためには、想定外の出来事(偶然)を最大限に活用すること、自らの積極的な行動によって想定外の出来事(偶然)を作り出すことが重要となります。
つまり、「幸運」に恵まれるのは単なる「偶然」ではない。その「偶然」をいかに「自らの行動」で活かせるかどうかなのです。今後のキャリアを深く考えたい人にとって、本書は良き相談役となってくれることでしょう。



経営学部
大曾暢烈 准教授

『植物は感じて生きている(植物まるかじり叢書 2)』

瀧澤美奈子著 (化学同人) 2008

動物と植物の違い、と云われてみなさんが真っ先に思い浮かぶことは何でしょう？その名が示す通り、動物は自由に「動くもの」、植物はその場に、しっかりと根を張って「植わっているもの」です。しかし、オジギソウやハエトリソウを触ると、速やかに葉が閉じていきますね。つまり、植物も様々な場面で、動く能力を備えているのです。
植物は発芽し、根を張ったその場所から、自分で動くことも、逃げることもできません。しかし、太陽に向けて葉を伸ばし、倒されても再び、空に向けて茎を伸ばします。また、葉の裏にある気孔は、夜になると閉じていきます。これらの運動は、植物が光や重力を感じることで、つまり「刺激を感じる」ことで、引き起こされます。本書では、これらの仕組みについて、「第一線の研究者へのインタビュー」という形式で、広く一般向けにわかりやすくまとめられています。植物の見えない力、その仕組みに触れてみませんか？



人間生活科学部
古市卓也 教授